

菊池町長（左から2人目）と懇談する畠山氏（右隣）ら＝21日、北海道訓子府町



北海道オホーツク3自治体 畠山前衆院議員 町長と懇談

日本共産党の畠山和也前衆院議員（参院北海道選挙区候補）は21、22の両日、北海道北のオホーツク管内入りし、宣伝や集い、JAや商工会議所など団体訪問と終日精力的に活動しました。訓子府（くしむつ）、小清水（こしみず）、斜里（しやり）3町長と懇談しました。

訓子府町で今年7月に開催した「第23回全国小さくても輝く自治体フォーラム」に党道議団が参加したことに謝意を述べた菊池一春町長。「平成の大合併

にくみせず、住宅・商店街リフォーム制度や子ども医療費助成制度「中学卒業まで」拡大と町民本位の施策を進めてきたことを同席した工藤弘喜党町議らと話し合いました。

久保弘志小清水町長との懇談には、工藤幸一党町議が同席し、農業を柱にした地域振興が話題になりました。久保町長は、高品質のジャガイモが評価され、大手メーカーの季節限定ポテトチップスとして発売されていると紹介。町内にある4本の温泉を利用し、災害に強い冬場の施設園芸の事業化に取り組んでいると話しました。

世界遺産・知床を抱える斜里町では、馬場

地域振興 鉄路残そう

たものの、2006年に廃線となったことに言及。現在の道内鉄道網の廃線議論に異議を唱え、「スタートは国鉄の分割・民営化。そこに立ち返るべきです」と強調しました。

隆町長を宮内智英党町議とともに訪問しました。

大切な通学手段のJR釧網本線を観光にも生かすため、2次交通体系を検討していると話す馬場町長。畠山氏は「各自治体の存続への努力を国やJRは無にしている。鉄路の維持・存続へ党として力を合わせます」と表明しました。